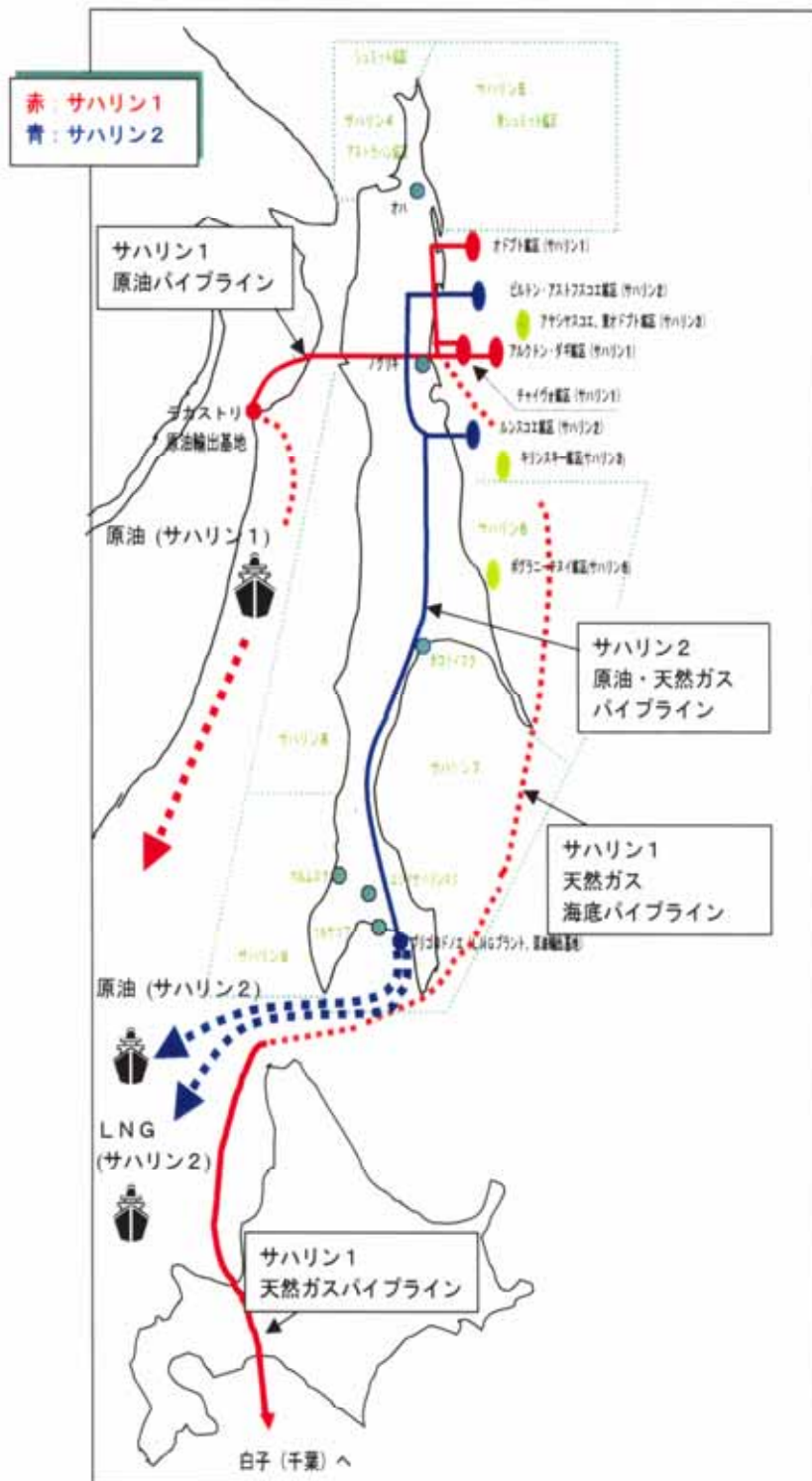


2005年 サハリン日誌



2005年6月

サハリンプロジェクト位置図



6月14日(火)晴れ

今回のサハリン訪問は、今年度「宗谷建設青年会」が、北海道建青会の全道会員大会を主管するという事で、大会の記念行事の一環として、10月中旬に全道の会員を対象にサハリンミッションを企画しており、その事前調査が主な目的である。

事前に稚内市を通して、サハリン2の天然ガス液化プラント建設を受注した「CTSD」(後述)にアポイントをとってもらい、プリゴノドノエ地区の建設現場で説明を受ける予定となっていた。

しかし、出発当日の朝8時ころに稚内市から連絡があり、「CTSD」のほうから事情により今回の対応はキャンセルしたいとの電話があったと伝えてきた。

サハリンに派遣している当社の職員に問い合わせたところ、昨日建設現場で死亡事故が発生した模様である。

プラントの現場内には、パスがないと入場できないため、どうしたものかと思いつながらも、ここに至って訪問を中止するわけにも行かず、とりあえず稚内国際フェリーターミナルに向かう。

9:00 稚内国際ターミナルへ到着。今回サハリンへ向かう「宗谷建設青年会」のメンバーがすでに揃っている。

今朝の稚内市からの連絡を伝えたが、先ずはサハリンへ向かい、現地に派遣している職員とも相談して対応を考えるということになった。

我々が乗る稚内とコルサコフを結ぶ定期航路も今年で7年目を迎えた。今年の定期航路は、4月の初旬から12月の中旬まで60往復のスケジュールである。(2等往復運賃¥30,000)

ただ、今年は5月の中旬にサハリンに向けて出航した船が、アニワ湾の流氷に阻まれて引き返すという非常に珍しいケースもあった。

10:00 定刻で稚内を出航(船は「アインス宗谷」)。天気も良く、海も非常に穏やかで、船酔いの心配も一切ない。この便の乗客は、56名。

今回我々の一行は、「宗谷建設青年会」から6名と稚内建設会館の常務を加えて、総勢7名である。



船から見る北防波堤ドーム 海は穏やかで波ひとつない

日本の携帯電話も出航から1時間半くらいまでは通じる。

出航から2時間ほど経っただろうか、甲板に出ていると、後方にイルカが数頭で泳いでいるのが見えた。去年は船と一緒にしばらく泳いでくれたのだが、今回は進路が違ったのか、すぐに見えなくなってしまった。

15:45〔日本時間〕 17:45〔サハリン時間〕時差2時間。

予定より15分遅れで、コルサコフ港に接岸。5時間45分の船旅。



コルサコフ港北埠頭



コルサコフ港南埠頭と市街地

昨年から、トランク等の大きな荷物は、稚内で船に乗る前に預けておくと、黙っていてもトラックで税関まで運んでくれるようになった。

人は大型バスで埠頭から税関まで輸送(乗車時間約3分)、乗客が56名だったので、今回は2往復で終了。我々は2回目のバスで税関に着いたのだが、通関を待つ人が長

蛇の列になっている。

しばらく進みそうもないので、外でタバコをふかしながら待ち、少なくなってから最後尾に並んだ。

実は修理のために日本に持ち帰っていたトランシットを預かってきており、おそらく測量機器等はチェックが厳しいだろうとの予想もあって、ちょっと心配していたのだが、あにはからんや、何事もなくすんなりパスした。

しかし、意外にも同行したメンバーが持っていた、お土産の珍味の詰合せが引っかかってしまい、10分ほどすったもんだした。結局は通してくれたのだが、税関の係官によっても結構差があったり、最近の傾向としては、缶詰等の食料品には結構厳しいとの話である。

結局全員が税関を通り終えたのは、接岸してから1時間45分後の19時30分[サハリン時間]であった。

ターミナルには、合併企業「ワッコル」(後述)のセルゲイ社長、派遣職員の大釜君、柳田君が迎えに来てくれていた。

プラント現場の死亡事故についてはすでに知っており、「CTSD」は対応が無理なため、現場に入るための臨時パスを「KSC(カジマケイマンサハリン)」(後述)に依頼してもらうことにする。

明日の10時にコルサコフにある「ワッコル」の事務所で落ち合うことにして、旅行代理店が用意した韓国製のミニバンでユジノサハリンスクのホテルに向かう。

今回我々についた通訳は、サーシャさんという人で、ロシア系ロシア人(こんな言葉はないのだろうが、韓国系、日系と区別するため)である。ユジノの大学で日本語を教えているとのこと。なかなかクールな感じの36歳である。

コルサコフとユジノサハリンスク間の道路は、以前と比べると本当に良くなった。とりあえず全線舗装してあるし、登り車線には、追い越し車線があって3車線になっており、今回のドライバーも90km/hくらいでバンバン飛ばす。



ユジノ～コルサコフ間の道路

約50分ほどでガガーリンホテルに到着。



ガガーリンホテル全景

ガガーリンホテルに宿泊するのは初めてだが、最近出来たホテルで、大変きれいである。(旅行代金内訳書では、一泊朝食つきで \$125 = ¥13,500)

シャンプー、リンス、石鹸、ドライヤー等々、結構揃っている。ただし、残念ながら日本の衛星放送は入らなかった。(入るホテルも数軒ある。)

また、各階の廊下にミネラルウォーターが配備されているのだが、通訳のサーシャさんの話では、飲まないほうが無難だろうとのこと。



ベッドルーム



浴室

部屋も浴室も非常に清潔で良いのだが、ただ浴室のバスタブを仕切るカーテンのレールが、なんと“つっぱり棒”である。カーテンをしようとして、つっぱり棒を落としてしまった人が結構いた。(私もその一人)

20時30分からホテルのレストランで食事。予約してあったので、テーブルに前菜が並んでいる。ハム、サラミ、トマト、サラダのようなもの、キムチ(サハリンには韓国系の人が多いので、キムチはポピュラー)等々。飲み物は別会計と言うことで、ビールを頼んで乾杯。

そのあとウオッカも少々たしなむ。(ロシアの発音では「ウオトカ」)

しばらくしても前菜以外の料理が出てこないの、何人かがウエイトレスに確認してみたが、誰が聞いてもこのあとの料理のことが分からず、仕方がないのでメニューから料理を数品頼んだのだが、頼んだとたんセットであろう魚料理が出てきてしまった。

食事を終えて会計をしたのだが、お釣りはウエイトレスのポケットから出していた。一体どうなっているのやら・・・

6月15日(水) 晴れ

今日も良く晴れていて、暑くなりそうである。(おそらくユジノの最高気温は25度を超える)

ホテルのフロントで同行のメンバーが、ルーブルに両替した。1万円が2400ルーブルだったので、1ルーブルが約4.2円というレートである。

9:00にホテルを出発して、コルサコフに向かう。

丁度ユジノとコルサコフの中間地点で、パイプラインが道路を横断しており、そこで写真を撮るため車を止めてもらった。

去年は、道路横断を推進で施工していたが、現在は道路の東側で盛んに作業が進められている。

付近にある資材置場のパイプも相当な量である。



道路の東側に伸びるパイプライン



敷設作業の様子



道路の反対側（まだ伐開のみ？）



資材置場

9：50 コルサコフの「ワッコル」事務所に到着。「KSC」に用意してもらった臨時パスをもらい、セルゲイ社長とともに、プリゴドノエの天然ガス液化プラント建設現場に向かう。

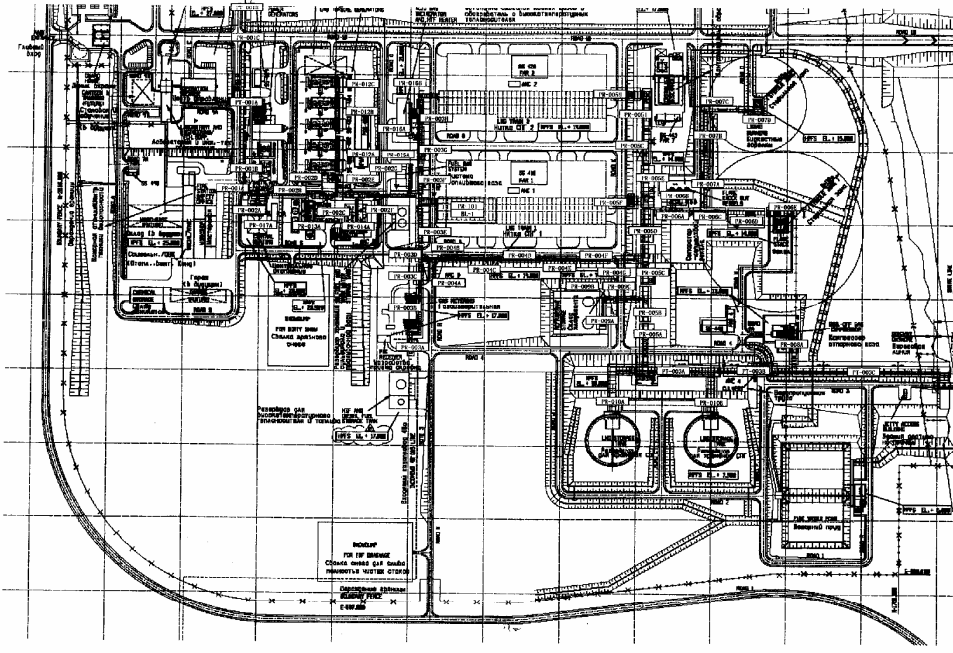
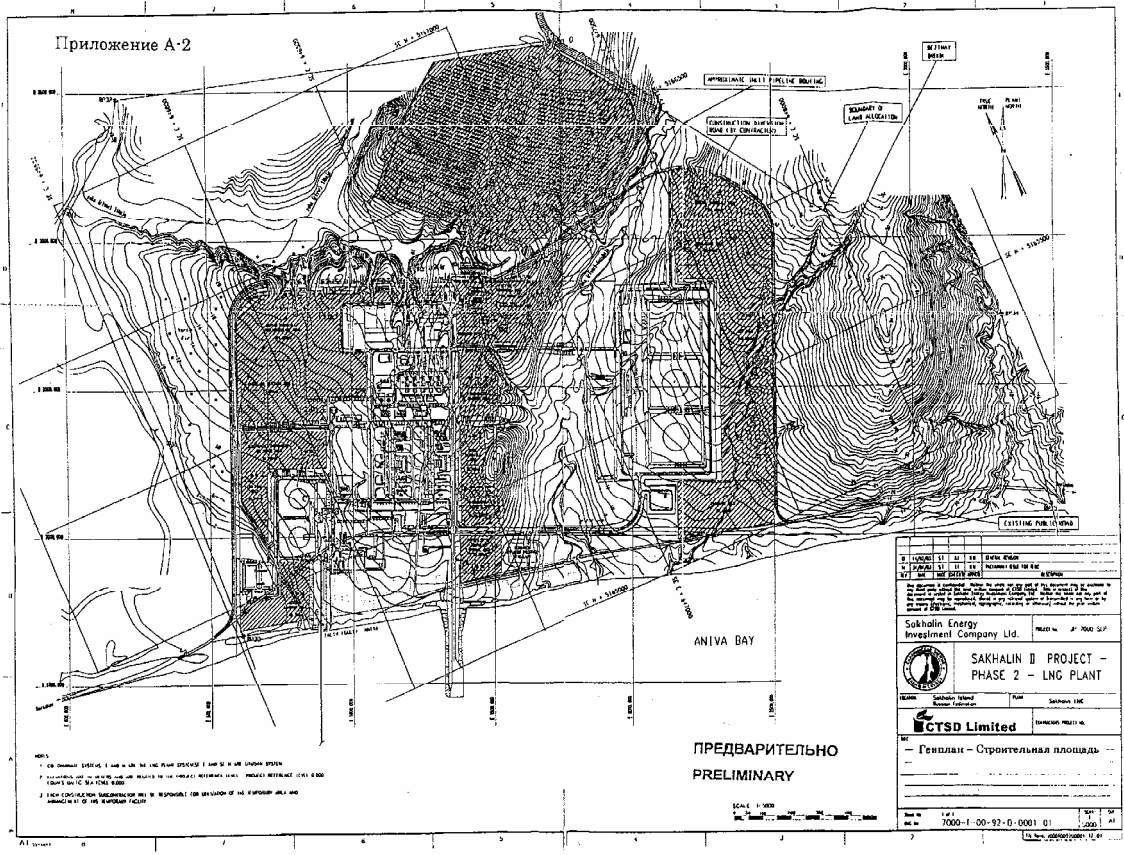
この液化プラント建設であるが、発注者はサハリン2と呼ばれている「サハリンエナジー社」。これはシェル（55%）、三井物産（25%）、三菱商事（20%）が出資しているプロジェクト投資会社。

一昨年、「サハリンエナジー社」は、2007年から東京ガス、東京電力、九州電力等に天然ガスをLNGにして販売するという基本契約を結んだ。

そのため、サハリン北部のルンスコエ天然ガス工区とピルトゥン・アストフスコエ原油鉱区からコルサコフ付近のプリゴドノエ地区まで約700kmのパイプライン敷設工事（原油と天然ガスの2本）とプリゴドノエ地区に天然ガス液化プラントを建設する工事が2003年から行われている。

プリゴノドノエ 天然ガス液化プラント 完成予想図





プリゴノドノエ 天然ガス液化プラント建設工事 全体平面図

天然ガス液化プラント受注形態

発注者 **サハリンエナジー**〔サハリン - 2〕 シェル・三井・三菱

元 請 **CTSD** 千代田化工建設・東洋エンジニアリング・ヒムエネルギー・
ニピガスペレラボトカ（2社はロシア企業）
〔受注額は3,000億円（予想）2003年6月契約〕

KCS 鹿島ケイマンサハリン（鹿島の子会社）プラント基礎等

ワッコル **稚内建設会館とロシアの合弁企業**
（2001年9月設立）オフサイト施工
2004年4月より、稚内から技術者を3名派遣

ポストーク 〔ロシア〕道路工事

リボストロイ 〔ロシア〕ユーティリティ

東亜建設 生コンプラント、オイルエクスポートターミナル、
棧橋工事

ワッコル **稚内建設会館とロシアの合弁企業**
リテーニングウォール施工
2005年4月より、稚内から技術者を2名派遣

タイガーアムール 〔ロシア〕

トランスストロイ 〔ロシア〕造成工事、道路工事（バイパス）、
荷揚棧橋

アンガルスク 〔ロシア〕キャンプ建築工事、小建築物建築工事

CBI 〔アメリカ〕LNGタンク工事

アラルコ 〔トルコ〕メインビル工事、配管工事

デウー 〔韓国〕

2003年と2005年との比較



2003年8月 プリゴノドノエ状況



2005年6月 プリゴノドノエ現況

〔ほぼ同じ箇所から撮影したもの。後方の山を比べると違いが良く分かる〕

現場入り口にゲートがあり、全員のパスを確認してから入場が許可される。途中で派遣技術者の大釜君を乗せて、現場内の案内役をしてもらう。

派遣技術者は、昨年「ワッコル」が「KCS」の下請けをすることになり、日本仕様の施工が必要となったため、「ワッコル」の施工アドバイザーとして派遣を始めたもので、昨年は稚内の建設会社3社からそれぞれ1名ずつ、今年は5社から1名ずつの5名が4月下旬から11月末までの予定で、派遣されている。

まず最初に東亜建設のオイルエクスポートターミナルの現場に向かう。ここでは派遣職員の柳田・和田の2名と、型枠大工2名が日本で言うところの波返し擁壁を施工している。

現在は、一番下の型枠を取り付け、鉄筋の組立を行っているところであった。また、沖では、ケーソンのマウンド均しと思われる作業をしていた。



あちこち現場の写真を撮りたいのだが、CTSDの許可をもらっていないため、なかなか思うように撮影することが出来ない。「ワッコル」のセルゲイ社長の話だと、カメラを取り上げられたケースもあったとのこと。

休憩小屋で和田君から話を聞いた。

現在6000人収容のキャンプは、ほとんど完成しており、約5000人が入っているとのこと。

食堂棟は5棟あり、ひとつは元請の「CTSD」用、ひとつは派遣職員等のような技術者用、あとの3つが作業員（ワーカー）用となっている。最近、作業員が増えたため、さらに臨時のテントが設けられて食堂となっているようだ。

食事はバイキング形式になっていて、まずまず種類はあるようだが、残念ながら日本人向けの味付けにはなっていないようで、お世辞にも美味しいとはいえないとのこと。せめて食事は美味しいものを食べさせたいのだが・・・

体調と事故にはくれぐれも注意するように話して、次の現場へ向かう。

昨年、パイプラックの基礎工事ということで、数多くのコンクリート基礎を施工したのだが、現在はその基礎の上に金物を取り付けられ、パイプが縦横無尽に走るプラントの様相が見えてきている。

また、トレイン1と呼ばれる液化プラントの上屋の工事が始まっており、巨大な鉄骨が組まれている。



トレイン1 上屋

現場内をまわった後、キャンプ区域に向かった。

現場とキャンプ区域の間には、新しく作られた迂回用の一般道が通っていて、現場から出るためにいったん警備のゲートを通ってから、またキャンプ区域に入るためにゲートを通らなければならない。どちらのゲートもチェックは厳しく、警備員が車のドアを開けて、全員がパスを持っているかどうか確認していた。



キャンプ区域入り口付近（後方に並んでいる建物が宿舎）
昼食時だったため、現場と食堂を往復する大型バスがひっきりなしに走っていた。



作業員用宿舎

キャンプ区域には、規模こそ小さいが病院、消防もあり、ひとつの村のようになっている。まさしく巨大プロジェクトであり、世界最大規模の液化プラントであることを実感させられる。

まだまだ見学したいとこともあったが、12時30分ころ現場をあとにして、コルサコフにある「L T S」というレストランに向かう。

食事を終え、ユジノの稚内市サハリン事務所に向かった。現在稚内市の職員は丁度帰国しており、北海道銀行から出向してきている樋口君と明日の打合せをする。

顔見知りの人もいると見えて、北海道事務所と日本領事館へのアポを取ってもらった。正直、どちらも挨拶くらいしか出来ないだろうと思っていたので大変助かる。

サハリンの日本人は、増えたとはいえまだまだ少なく、いろいろな行事で他の機関や企業の人と接する機会も多いのだと思う。樋口君は良いコネクションを作っているようだ。

そのあと、今ユジノに大規模なホテルが数軒建設中とのことで、案内してもらったことにした。



韓国系ロシア人が建設中のホテル（今年9月オープン予定）



漁業関係の会社が建設しているホテル

ユジノには、まだまだ中小も含めて数多くのホテルが建設中とのこと。ただ、疑問なのは(樋口君とも意見が一致したのだが)、一体誰が宿泊するのだろうかということ。

確かに今は、サハリン1、2が最盛期であり、ホテルも不足気味である。(値段も高い!)しかし、2~3年後にはサハリン1、2は一段落するだろうし、その後の石油・ガス開発プロジェクトもなかなか見えてきていないのが現状である。

来年には真新しいホテルが乱立しているだろうが、3年後くらいに既存のホテルがどうなっているのか興味のあるところである。

18時 レストラン「Ledyanoi stakanchik」(冷たいグラスの意味)で夕食。ここは、すぐ裏にあるビール工場の系列のレストランで、この店のならばにはビールを量り売りするところがあり、黒山の人だかりになっている。皆それぞれ容器を持ってビールを買いに来ている。

このレストランは、前菜のサラダも美味しいし、ニシンの塩油漬けも皆気に入っていたようだ。

ビールをジョッキ(中ジョッキ程度)で注文したのだが、さすがビール工場直結ということもあって、美味しいビールが出てきた。びっくりしたのは、その値段である。飲み物は別会計なので、清算したのだが、ジョッキ一杯14ルーブルである。日本円で言うと56円!

ホテル等でビールを飲むとこれの10倍くらいとられる。おそらくこのレストランの値段が、実際のサハリンの物価なのだろうと推測される。

6月16日(木)晴れ

10時に北海道事務所を訪問する。

沓澤所長が、わざわざ説明資料を揃えてくれて、丁寧にサハリンの現状を説明してくれた。また、稚内の活動を高く評価してくれていて、とてもうれしかった。

10月の北海道建青会の訪問の際にも協力をお願いしたところ、快く承諾していた

だいた。

来月には、高橋知事がサハリンを訪問するということで、その準備で忙しい様子だった。

1 1時から博物館見学

1 2時 レストラン「Holiday」にて昼食。このレストランは、バイキング形式で、なかなか美味しいものが揃っている。「サハリンエナジー社」の近所にあり、外国人もよく利用しているようだ。

食後にコーヒー（別会計）を飲む。今回初めてインスタントコーヒーではないコーヒーを飲んだ。これまでは、ホテルでもレストランでもコーヒーはインスタント、紅茶はティーバッグだった。

1 4時 日本領事館を訪問。

北海道事務所もそうなのだが、日本領事館もみちのく銀行が建てた「みちのくビル」に入っている。

丁度入り口で、夏井総領事と一緒にになり、領事館へ案内してもらった。

さすが領事館である。同じビルの中ではあるが、普通の事務所とはセキュリティがぜんぜん違う。

事務所に入るために施錠された3つのドアを通らなければならないのだが、2番目と3番目のドアの間に小さな部屋があり、入館しようとする人が皆その部屋に入って、2番目のドアを閉じてからでないと3番目のドアが開かない仕組みになっている。

テロ対策ということだが、なかなか入念なことである。

夏井総領事はとても温厚そうな方で、我々の質問にも丁寧に答えてくれた。ただ、合弁企業「ワッコール」については、あまり詳しく知らないようで、ちょっと残念であった。ただ、そのぶん大風呂敷を広げてPRしてきたつもりではあるが・・・

1 5時 6年前に当社に研修に来ていた、ハビロフ・ワレリー（54歳）と会う。当時はユジノサハリンスク市の建設局にいたのだが、現在はサハリン州政府の建設局に在職している。

体調（心臓のほうか？）があまり良くなく、ちょっと前まで入院していたそうだが、見る限りでは元気そうだった。

これから場所を移して話をしたいと言われたが、こちらも団体で動いているので断るととても残念そうにして、次回サハリンに来るときは、家族にも紹介したいし、2日間空けてくるようにと言われた。ロシア人は個人的に知り合いになると、とても親切でやさしい人種である。

1 5時30分 皆でバザールへ行く。バザールは露店がたくさん並んでいて、とても賑わっている。

ただ、以前に比べると露店の数が減ったようだ。

メンバーの一人が毛皮の帽子を買おうかどうか迷っていた。ひとつ3000～4000ルーブル。高いのか安いのか??? 結局あきらめた。

今回最後の夕食はレストラン「Slavyanka」。小さな店だが、とても混んでいる。食事中に何組か客が入ってきたが、皆断られていた。

料理も美味しく、皆満足していたようだ。

6月17日(金)晴れ

いよいよ帰国の日である。

8時にホテルを出発し、8時50分、コルサコフのターミナルに到着。

さあ、あとはフェリーに乗り込むだけ、と思っていたら、通関がなかなか始まらない。

通関のサーシャさんから話を聞くと、コルサコフの港のほうで火事があったそうで、その火事の影響でターミナルが停電しており、それで通関がストップしているとのこと。これはそう簡単に復旧しそうにない。昼食の心配までしだした10時50分、やっと通関が始まった。

税関の職員も急いでいたせいか、スムーズに進み、全員無事フェリーに乗船。

11時30分(通常より1時間30分遅れ)コルサコフ港を出航し、帰途についた。帰りの船の乗客は31名。



コルサコフ港出港

来るときには、霞のようなものがかかって見えなかったプリゴドノエの現場も、帰りにはタンク等がはっきりと見える。



沖から見たプラント建設現場(中央にタンクが2基見える)

まとめ

今回の訪問は、メンバーの日頃の行いのせいか本当に天候に恵まれた。稚内出発のときに危惧していた液化プラントの見学も無事終わることが出来、まずまず目的は達成できたと思う。

10月のミッション開催に向けて、クリアしなければならない課題も多いが、成功の手ごたえは充分に感じられた。

また、今回日本の関係者の話を聞いて、ひとつ気になったのは、石油・ガス関係からロシアに払われるフィーの配分の関係である。

これまでは、モスクワとサハリン州である程度の比率で分けていたようであるが、どうも今後はモスクワが相当の部分を持っていきそうだという情報である。

いったんモスクワに入ったお金が、どのように配分されるのかは知る由もないが、サハリン州の今後の整備に支障をきたさないことを祈るばかりである。

それにしても、やはり世界最大規模といわれる液化プラント建設である。毎年見ているのだが、その規模にはただただ驚くばかりである。

長年にわたってサハリンと交流を続け、合弁企業を立ち上げ、ほんの一部ではあるが、世界的なプロジェクトに参入できたことは、大きな成果だと思う。

まだまだ将来的に課題は山積しているが、稚内・宗谷の発展にサハリンは不可欠なものであり、今後とも積極的な交流が必要なことは間違いないであろう。



船の右前方に利尻富士がうっすらと見える